

## ◆ 世界における海賊等事案の動向

国際商業会議所の国際海事局（IMB）の発表（2006年1月31日：速報値）によれば、2005年に世界で発生した海賊等事案の件数は276件（前年329件）で1999年以降では最低でした。昨年から減少傾向にありますが、身代金目的の海賊事件が増える傾向にあります。

海域別の件数としては、インドネシアが最多で79件（前年94件）あり世界全体の約3割を占め、続いてソマリア35件（前年2件）、バングラディシュ21件（前年17件）、マラッカ・シンガポール海峡19件（前年46件）となっています。

また、発生件数の傾向としては、インドネシアとマラッカ・シンガポール海峡においては2年連続で減少していますが、ソマリア、イラク10件（前年1件）、ベトナム10件（前年4件）では急増しています。

乗組員が殺されたり行方不明になっている者の数は12名（前年62名）で、前年の約1／5に減少し、2005年の殺害者は0名でした。また、負傷した者の数は24名（前年59名）で約4割減となっています。一方、人質にされた者の数は440名（前年148名）と大幅に増加し、過去15年間で最高となっています。

注）国際海事局（IMB）は、国際貿易等に関する取引慣習の統一化等を行う民間団体である国際商業会議所（ICC）の専門部局であり、海賊など海事関係の犯罪に対する防止対策等について、独自に情報を収集し、その分析等を通じて、広く海事関係者に助言を行っている機関です。